

「かかりつけ」と もっと信頼関係を 築くために

医療機関に行くとき
こんな場面は
ありませんか…?

ケース①



医師：今日はどうしました？

患者：あの一、風邪をひいたみたいなんです。

ポイント

「風邪」だけでは、どんな症状かは伝わりません。いつから、どんな症状があるのかを具体的に伝えましょう。前もってメモしておくといいですね。先生に聞きたいこともメモしておきましょう。

ケース②

薬剤師：お薬手帳はお持ちですか？

患者：ちょっと待ってね。内科、整形、眼科に通っているから、どれがどの手帳だか探すから……。

ポイント

病院ごとにお薬手帳は分けなくても構いません。1冊にまとめておくと、他の科でもらった薬との飲み合わせを薬剤師が確認してくれます。



ケース③



患者：いや～、世の中には便利なものがあるものだ。入れ歯安定剤を使うと、ピタッとくっついて、いろんな物が食べられる。

歯科医師：なんでも食べられることは良いことです。でも、入れ歯安定剤を使用するのは、一時的なものと考えてくださいね。

ポイント

続けて使用する場合には、歯科医師にご相談ください。歯ぐきがやせるなどにより、不適合になった入れ歯を安定剤で安定させるのは、一時的な対応として、できるだけ早く歯科医師に入れ歯の調整を相談しましょう。

ケース④

患者：先生、テレビやインターネットで私の病気のことを調べていたら、〇〇を食べるとよくなるとありましたが、本当ですか？

ポイント

テレビやインターネットには、たくさんの情報があふれています。自分の病気について疑問に思った時は、信頼できる「かかりつけ医」に相談されることをおすすめします。



ケース⑤



患者：先生、いつももらっている粒の薬が、最近飲みづらくなって・・・

医師：あら、大変でしたね。では、形状を変えてみましょう。

ポイント

飲みづらいからといって自分だけの判断で、錠剤を潰したり、カプセルを開けて服用したりせず、きちんとかかりつけ医に相談しましょう。

余っている薬があった場合も、そのことを伝えましょう。

※ケースはすべて架空のお話ですが、八代市医師会・八代郡医師会・八代歯科医師会・八代薬剤師会からのご意見を頂き発行しております。

医療について相談できる、身近な存在(かかりつけ)がいると心強いですね。

もっと信頼関係を築くために、分からないことがあれば、医療職の方(医師・歯科医師・薬剤師・看護師・相談員など)になんでも遠慮なく聞いてみましょう。

このチラシは、八代市医師会・八代郡医師会・氷川町・八代市の4者で協定を結び、地域包括ケアシステムの推進のために作成しています。

事務局：

八代地域在宅医療・介護連携支援センター ☎0965-33-4682